

お お く ら く に ひ こ

ものがたり



みなさんは「大倉邦彦」という人を 知っていますか？

大倉邦彦は明治から昭和の時代にかけて活躍した、
実業家であり、教育者であり、思想家です。
生涯を通して、日本や世界の人々がどうすれば健やかで
おだやかに幸せな人生を過ごせるかを研究し、実践しました。
今、神奈川県横浜市港北区大倉山に大倉山記念館という建物が建っています。
そこには邦彦が研究と実践のために作った大倉精神文化研究所と図書館があり、
今でも後に続く人たちが、邦彦のことや彼の遺した研究を受け継いでいます。
大倉邦彦はどんな人だったのでしょうか。
私たちに何を遺してくれたのでしょうか。



実業家

会社の社長として
目先の利益にとらわれない、
真の豊かさで日本人の
あるべき姿を追求しました。

教育者

幼稚園や学校を作り、
学生たちを指導しました。
また、社員教育も
積極的に行いました。

思想家

哲学・宗教・歴史
日本の文化・世界の文化
世界の平和について
研究しました。

どうすれば、世界中の人が幸せに暮らせるか？

どうすれば、平和で不安のない毎日を過ごせるか？

大倉邦彦は清らかで正しい心、何事にも動じない強い心、

豊かな知性を日常生活の中で身につけることの大切さを、

長年にわたって社会に伝えていきました。



え よこはまし おおくらやまき ねんかん おおくらくにむこ
絵：横浜市大倉山記念館と大倉邦彦





【第一章】広い世界に目を向ける

1882年

0歳 佐賀県神埼に生まれる

江原邦彦（のちの大倉邦彦）は、
1882（明治15）年4月9日、
佐賀県神埼郡西郷村大字姉川で
江原家の次男として生まれました。

母は、江原エツ
とても教育熱心な母でした。

次男 江原邦彦

父は、江原貞晴
のちに県議会議員や
西郷村村長になり、
村人から信頼されていました。



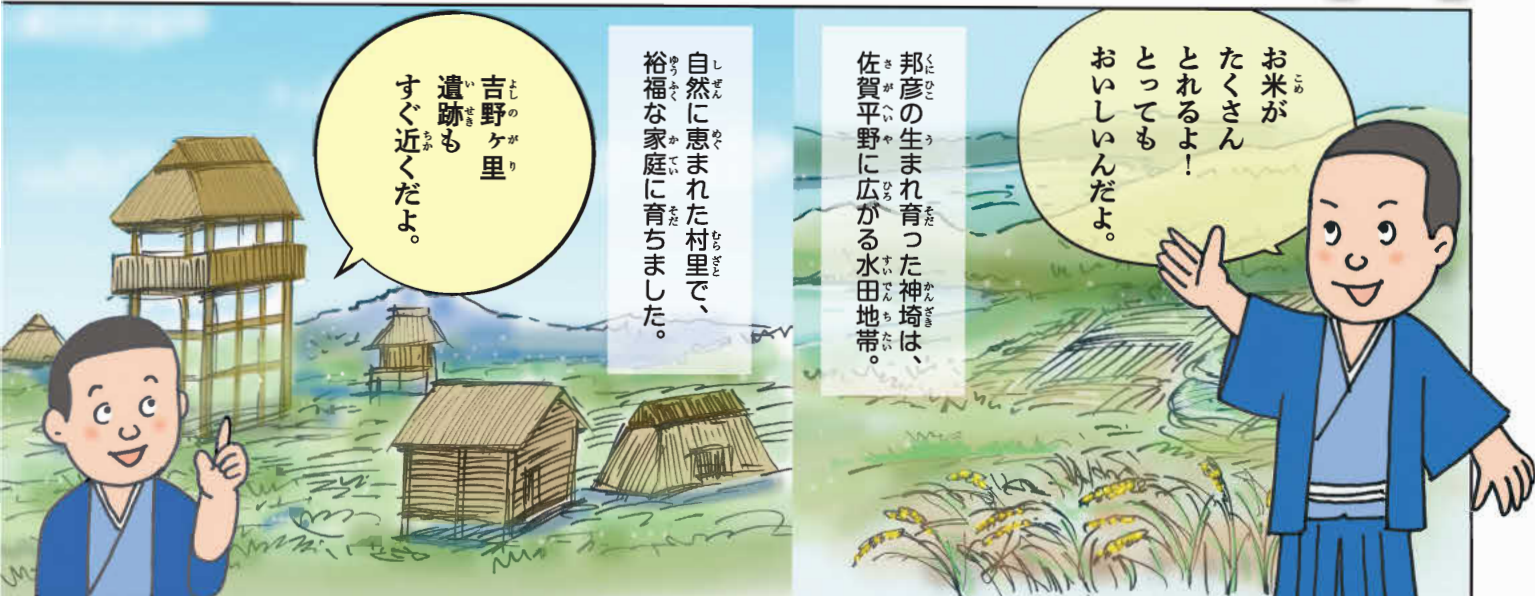
大倉邦彦生誕地

お米が
たくさん
とれるよ！
とっても
おいしいんだよ。

邦彦の生まれ育った神埼は、
佐賀平野に広がる水田地帯。

自然に恵まれた村里で、
裕福な家庭に育ちました。

吉野ヶ里
遺跡も
すぐ近くだよ。



1888年

6歳

横武尋常小学校へ入学
（今の神崎市立西郷小学校）

皆さんは今日から
小学生です！

一生懸命
勉強します！



厳しい父は邦彦が小学校
から帰ると...

邦彦！
*四書五経を
読んだら、習字を
しなさい！

ハイ！



*四書五経：儒教の中で特に必要とされる9つの書物の総称。四書は「大学」「論語」「中庸」「孟子」、
五経は「詩経」「書経」「礼記」「易経」「春秋」。

当時、小学校には
尋常科と高等科があり、
邦彦はとなり町
佐賀市の勸興小学校へ
進学しました。

邦彦はとなり町
佐賀市の勸興小学校へ
進学しました。

よし
お兄ちゃん
勉強するぞ！

頑張つてね
お兄ちゃん。

がんば
頑張るにやー

邦彦、学校は
遠いが、がんばって
通うんだぞ！

はい、
父さん

勸興小学校は佐賀藩の藩校・弘道館の
流れを汲む名門校で、教育に熱心な家の
子どもたちが通っていました。

家から学校までは約6キロ。

冬には背振山から吹きおろす
つめたい風に凍えながらも、
邦彦は片道一時間半の道のりを
毎日歩いて通いました。

きょう
今日もすごく
冷えるなあ
ブルブル…

朝は暗いうちに家を出て、
家に着く頃には真っ暗です。

お帰り
邦彦！

母さん
ただいま！

帰りは母が提灯
を手に途中で
待っていました。

その姿を見ると邦彦は
心底ホッとしたものでした。

小学校はお城のそばで、邦彦たちは
お濠の蓮に向かって石を投げて遊んでいました。

ボキッ
ボキッ
ボキッ

あの蓮の茎を
ねらうぞ！

邦彦！あてられる
ものなら、
あててみる

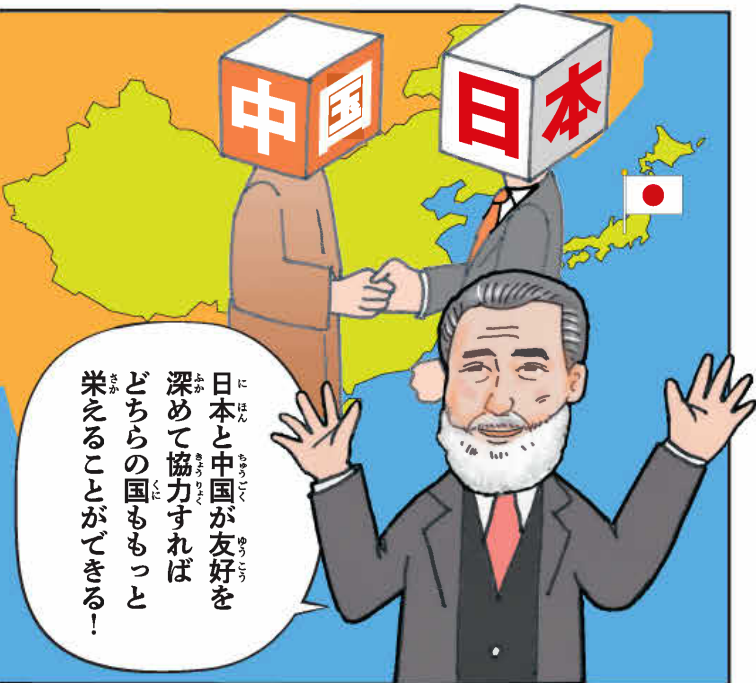
コラッ！

何をやってるんだ。
落ちている石が邪魔で
蓮根が掘れないだろうっ！

コラッ！

「人がやっていることでも、悪いことなら
決して真似てはならない」
心に深く刻みました。

ごめんなさい
もう二度としませんから



東亜同文書院は日中両国の親善や交流を目的に、日本人が中国に作ったビジネススクールでした。



何でも学んでやるぞ!!

生徒は日本全国から県の推薦を受けた優秀な人々が集まりました。

大倉邦彦と書院の同級生たち (赤い○印が邦彦)

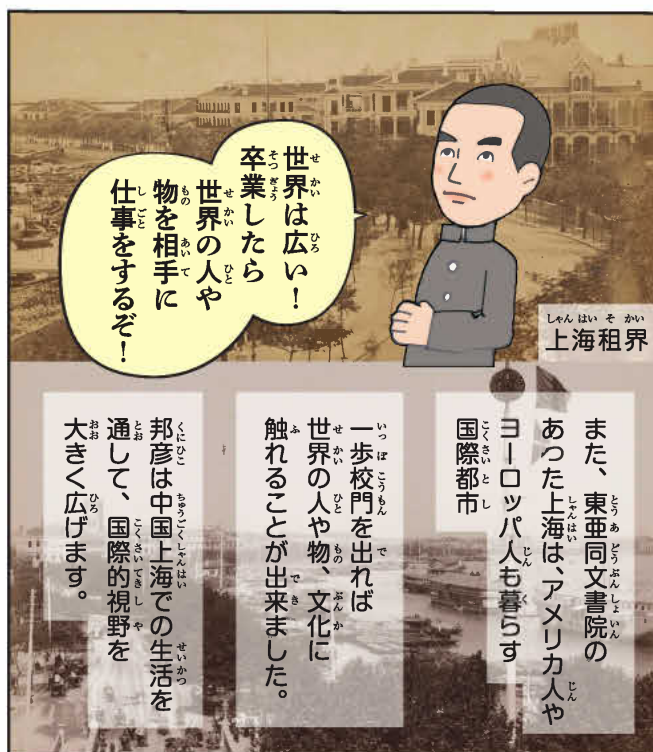
東亜同文書院正門



学生は毎朝、寮の廊下や校庭の隅で大きな声を張り上げて、中国語を熱心に練習しました。



ひとつのクラスには中国人の先生が二人日本人の通訳が二人いてみっちり中国語を指導されました。



世界は広い! 卒業したら世界の人や物を相手に仕事をするぞ!

上海租界

また、東亜同文書院のあった上海は、アメリカ人やヨーロッパ人も暮らす国際都市
 一歩校門を出れば世界の人や物、文化に触れることが出来ました。
 邦彦は中国上海での生活を通して、国際的視野を大きく広げます。



また、書院では禅の教えにも出会い、邦彦が東洋的な哲学や考えに興味を持つ
 出発点になりました。

東亜同文書院では、授業で中国の思想や文化に親しむだけでなく、中国各地へ旅行もしました。

中国や東洋のことをもっと知りたい!

你好